過疎地における地域リハビリテーション
-多職種によるモバイルデイケアの実践-

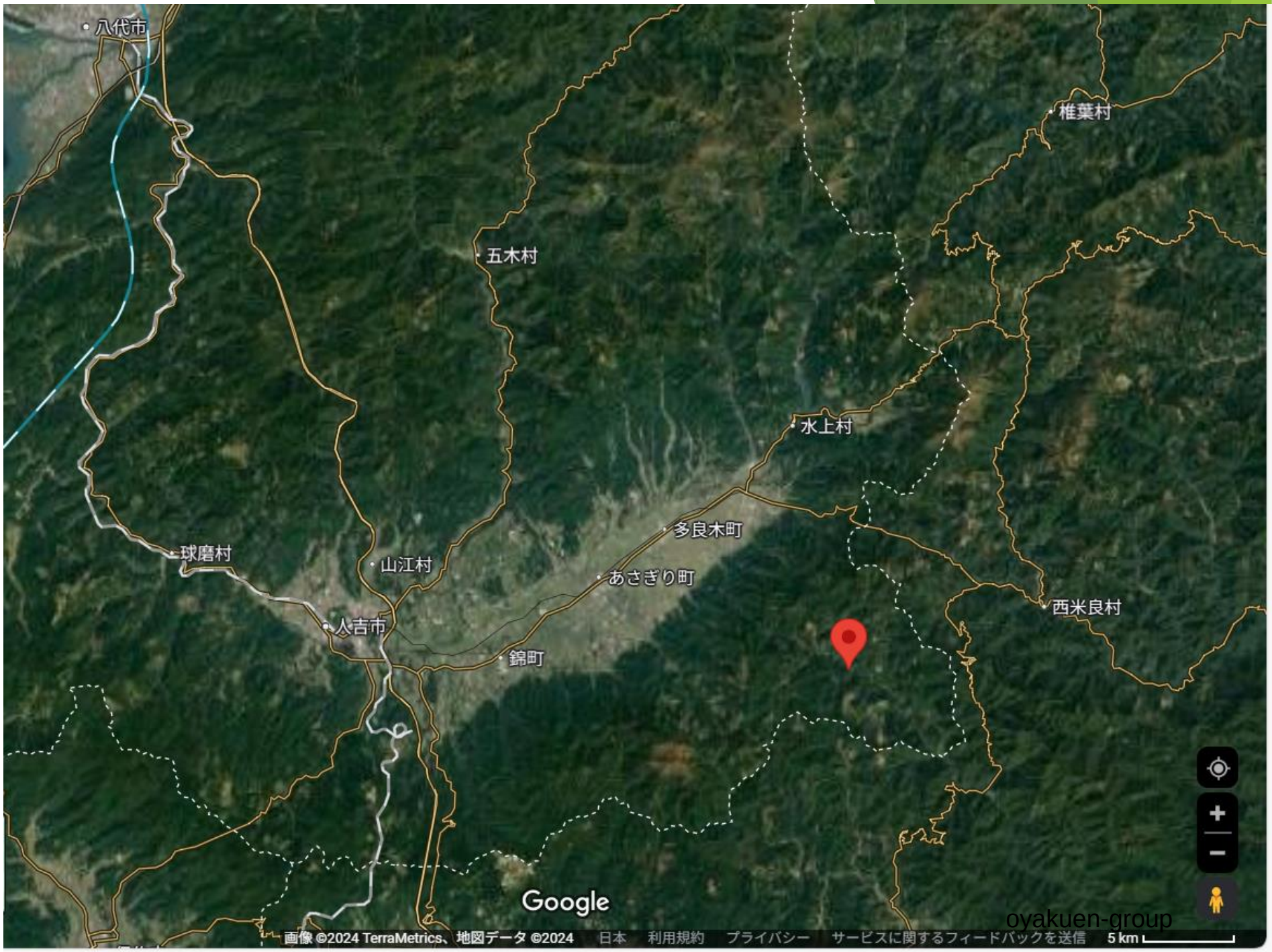
御薬園グループ　代表
山田　和彦

oyakuen-group

地域の紹介

- 御薬園グループがサービスを提供している主な地域

- 熊本県南部、宮崎県、鹿児島県に接し
- 九州山脈の山並みに囲まれた人吉盆地を中心とし
- 周囲の山々には多くの過疎地が点在している
- 総面積は１５３７㎢
  （東京２３区総面積の約２．４倍）
- 約８万人が居住



人吉球磨:市町村別人口・高齢化率

▼ニューストピック

高齢化率　五木と球磨村５０％超え　(2024/09/17)

人吉球磨10市町村の高齢化率

市町村名	総人口	65歳以上人口			高齢化率
		男	女	計	(%)
人吉市	29,842	4,722	6,792	11,514	38.6
錦　町	10,046	1,480	2,031	3,511	34.9
あさぎり町	14,134	2,395	3,205	5,600	39.6
多良木町	8,372	1,579	2,157	3,736	44.6
湯前町	3,475	666	925	1,591	45.8
水上村	1,946	364	522	886	45.5
相良村	3,987	780	988	1,768	44.3
五木村	937	205	271	476	50.8
山江村	3,177	511	673	1,184	37.3
球磨村	2,673	594	750	1,344	50.3
計	78,589	13,296	18,314	31,610	40.2

8月31日現在、本社調べ

人吉球磨１０市町村の高齢化率

９月１６日は「敬老の日」。人吉球磨１０市町村の８月３１日現在の６５歳以上人口と総人口に占める高齢化率は別表のとおりで、人吉球磨全体の高齢化率は前年同期より０.７ポイント上昇して４０％を超えた。

敬老の日に合わせて毎年、本社が独自に直近８月末現在で各自治体に尋ねているもの。…

ニュース：地域の話題　コメント（0）

地元の地方紙　人吉新聞　より

熊本県の地域リハビリテーション体制

oyakuen-group

熊本県地域リハビリテーション支援体制の概要

医師会・関係機関

連携

熊本県地域リハビリテーション支援センター（熊本地域リハビリテーション支援協議会※1へ委託）

・研修会の開催　・連絡協議会の開催　・運動器機能評価システムの運用　等

委託

相談　支援

地域リハビリテーション広域支援センター（県内17箇所の病院・老健を指定、委託）

1　地域リハビリテーションの効果的な支援
　・研修会の開催　・出張相談（派遣調整）　・連絡会議の開催
2　市町村の地域支援事業への効果的な支援
3　その他、地域リハビリテーションの推進に必要な業務

指定
（一部委託）

相談　相談　支援・相談

連携

地域密着リハビリテーションセンター

1　リハビリテーション等専門職の派遣
2　広域支援センターとの情報共有等
3　その他、地域リハビリテーションの推進に必要な業務

指定

支援　支援

連携

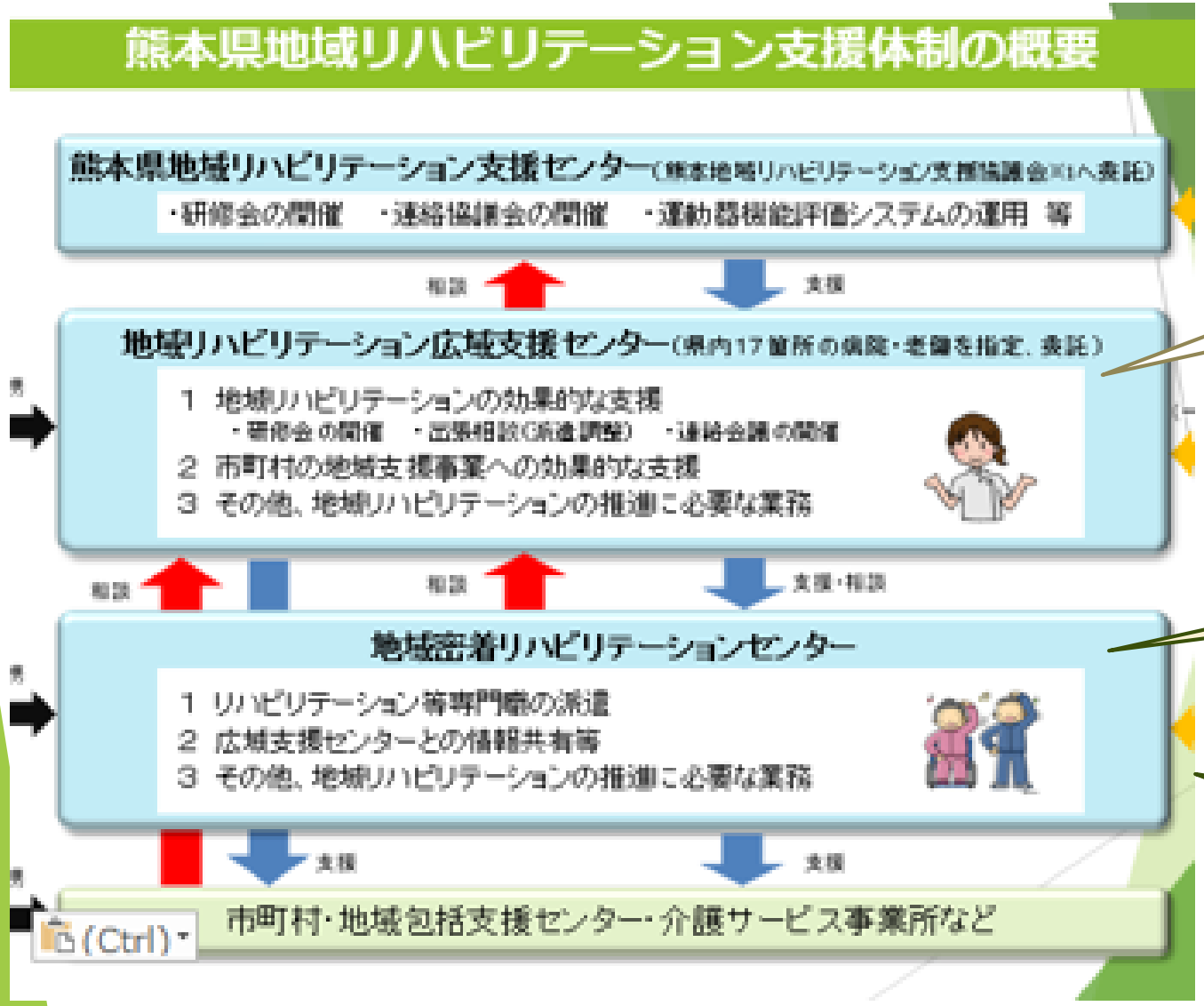
市町村・地域包括支援センター・介護サービス事業所など

熊本県

oyakuen-group

御薬園グループと
地域リハビリテーションのかかわり

oyakuen-group



介護老人保健施設リバ－サイド御薬園

人吉リハビリテーション病院

関連事業所

私たちの活動の基本は

利用者・患者の生活の場を知ってサービスを提供すること
その第１歩はその人が生活している地域に出向くこと

地域に出らずして地域を知ることはできない

球磨地域リハビリテーション広域支援センター

oyakuen-group

センター概要

名称	球磨地域リハビリテーション広域支援センター
指定	平成12年9月1日～
経緯	事業所の理解や地域リハ活動への熱意がある等
職員	医師、看護師、介護福祉士、セラピスト
活動目的	介護予防、自立支援
活動内容	1. 現地指導・相談対応 2. 市町村事業の支援 3. 研修会・連絡会の開催

通常業務①

現地指導・相談対応

- ✓ 住宅改修の助言
- ✓ 福祉用具の選定
- ✓ 老人会での健康教室
- ✓ デイサービスや通所Ｃの利用者へ運動方法の助言

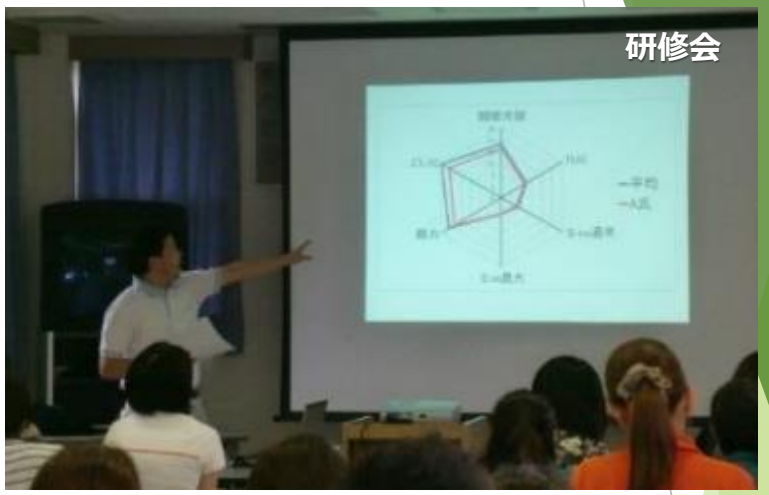
市町村事業などの支援

- ✓ 地域ケア会議へ助言者を派遣
- ✓ 住民主体の通いの場への支援
- ✓介護保険事業計画等の支援
- ✓ 在宅医療に係る会議の支援　など

通常業務②

研修会の開催

✓ 年2回以上。
✓ 講師は外部やセンター職員。
✓ テーマは介護予防・運動・認知症など幅広く。



連絡会の開催

✓ 年2回以上。
✓ 市町村、地域包括支援センター、病院、介護施設など。
✓ 活動報告や意見交換などを実施。

ニュースの発行

✓ H20まで実施。

御薬園グループ
地域へ出て行く自主的な取り組み

- 老人会での介護予防教室、体操指導
- 町内の活動への出動
  - 餅つき大会・敬老会・一斉清掃
- 小学校での体験学習・授業
- モバイル　デイ・ケア

モバイルデイケアの紹介

- 全国老人保健施設協会が行った研究事業がスタート

当時の問題意識：

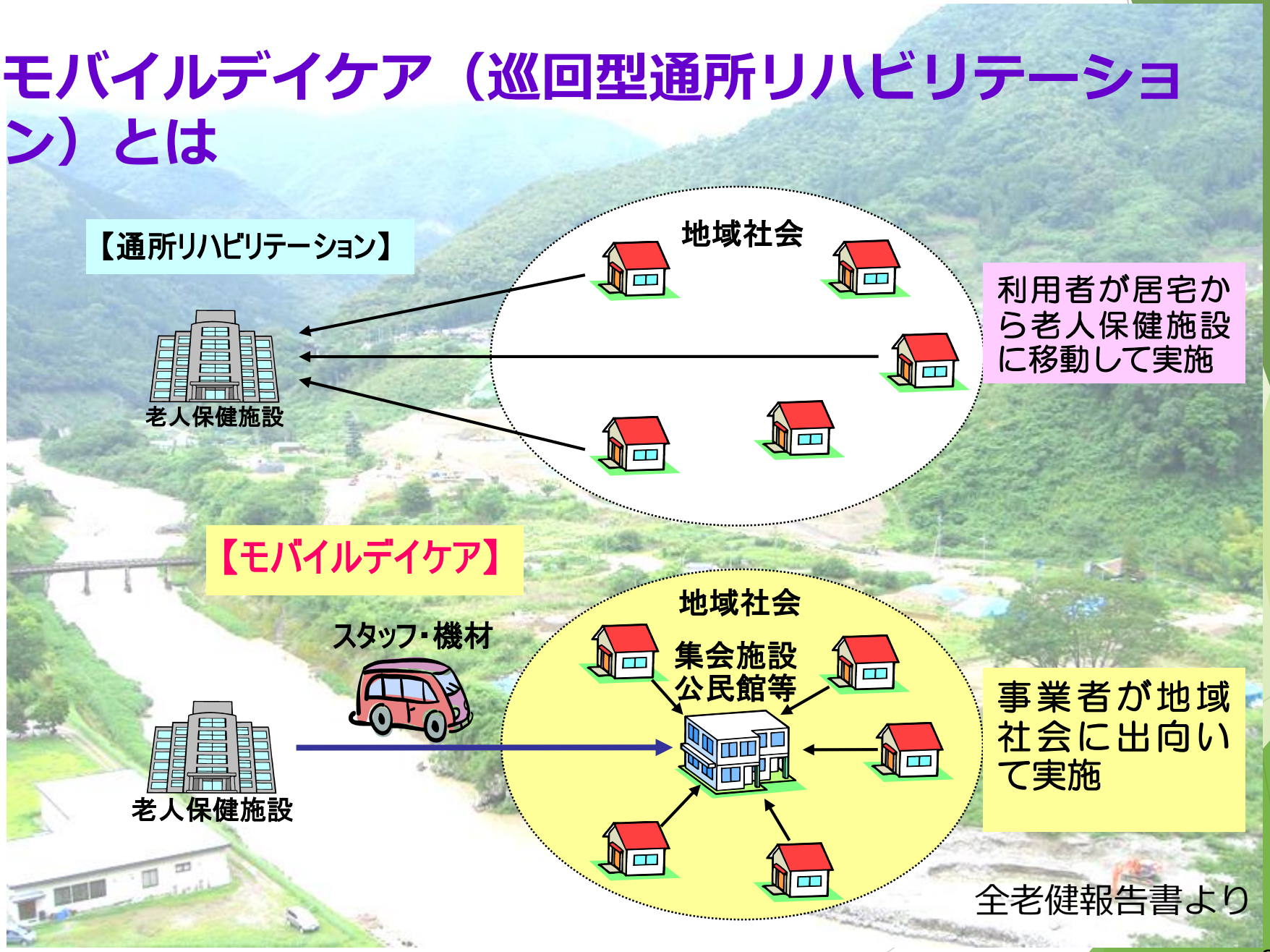
徴収される介護保険料は他の町民と同じでも、現実には希望しても僻地のために、居宅サービスを受けることができない地域が多くある。

モバイルデイケア

- ✓ 山間・離島で介護サービスの拠点がない等の地域の高齢者に対して、多職種がチームを組んで居住地まで出向き、リハビリテーション等を実施すること（巡回型通所リハビリテーション）。
- ✓ 全国介護老人保健施設協会から試行的事業を受託して実施。（最初は全国３カ所）
- ✓ Ｈ17年は熊本県球磨郡五木村へ、Ｈ18年からは熊本県多良木町槻木地区へチームを派遣した。

会場となった公民館

モバイルデイケア（巡回型通所リハビリテーション）とは

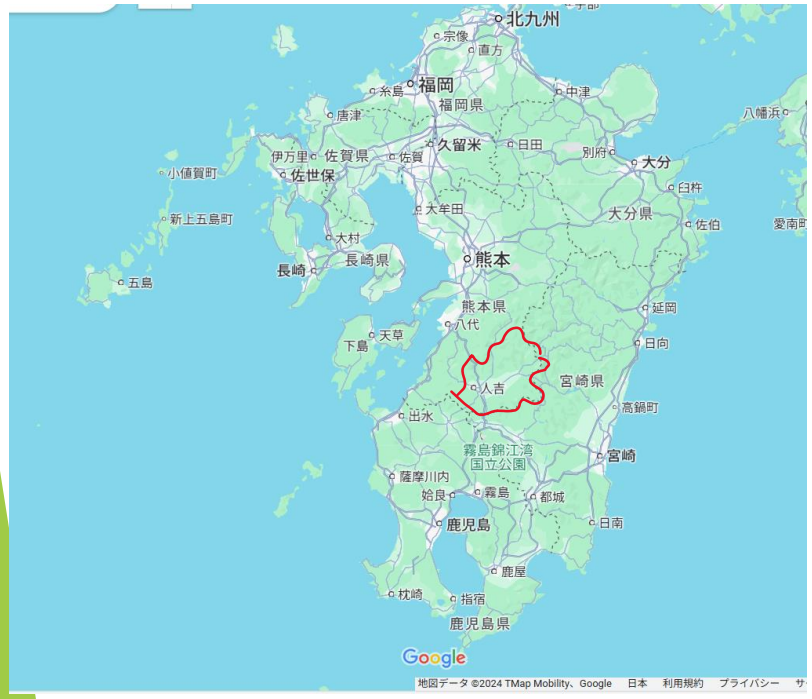


全老健報告書より

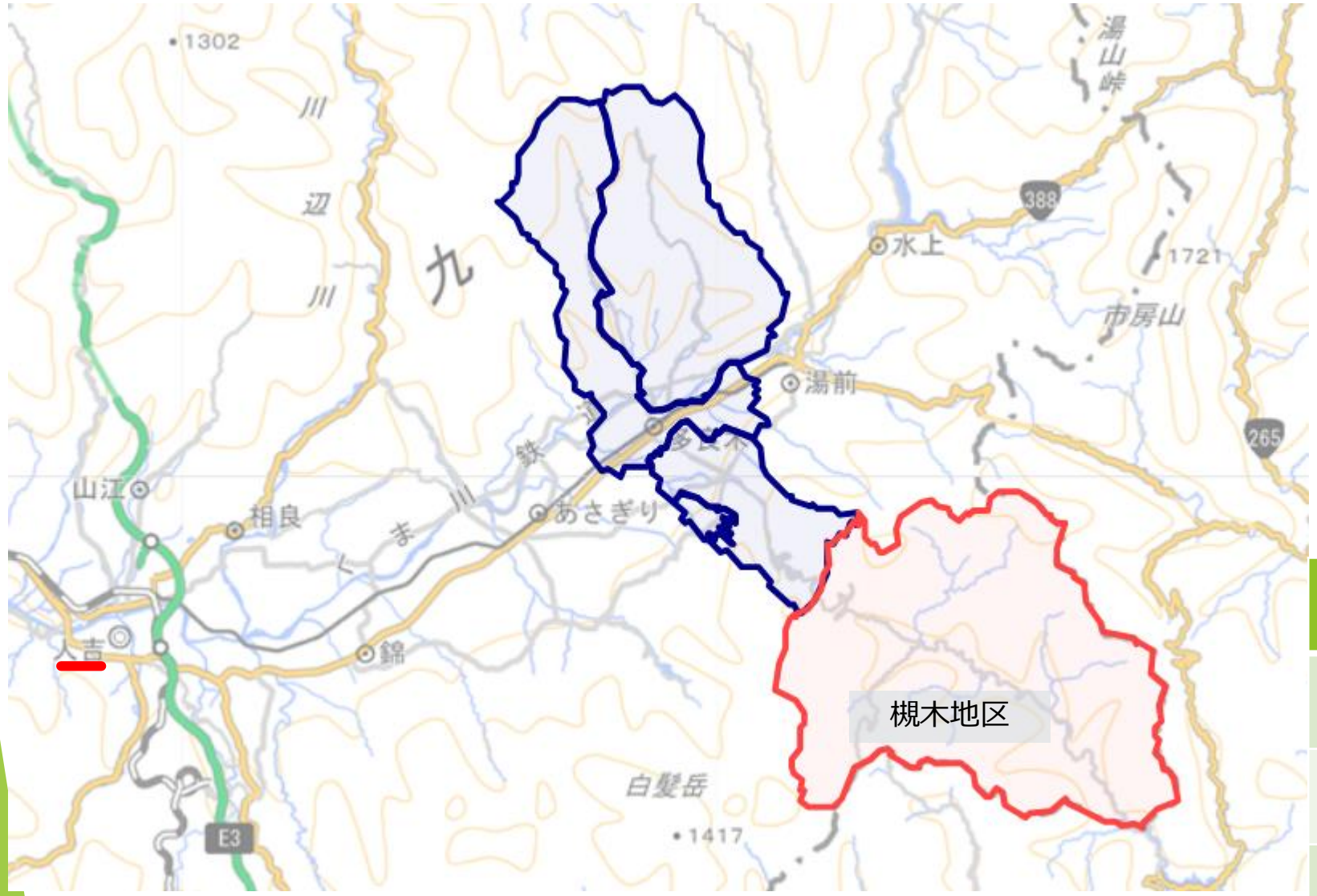
御薬園グループが行ったモバイルデイケア

- 槻木地区モバイルデイケアの紹介

槻木地区の紹介


北九州
宗像
直方
福岡
糸島
福岡県
中津
唐津
八幡浜
久留米
日田
別府
大分
伊万里
佐賀県
佐賀
佐世保
小値賀町
臼杵
大牟田
大分県
佐伯
新上五島町
大村
長崎
長崎県
熊本
愛南町
五島
熊本県
延岡
八代
天草
下島
日向
人吉
宮崎県
高鍋町
出水
霧島錦江湾
国立公園
宮崎
薩摩川内
姶良
霧島
都城
鹿児島
日南
鹿屋
枕崎
指宿
鹿児島県
Google
地図データ ©2024 TMap Mobility、Google 日本 利用規約 プライバシー

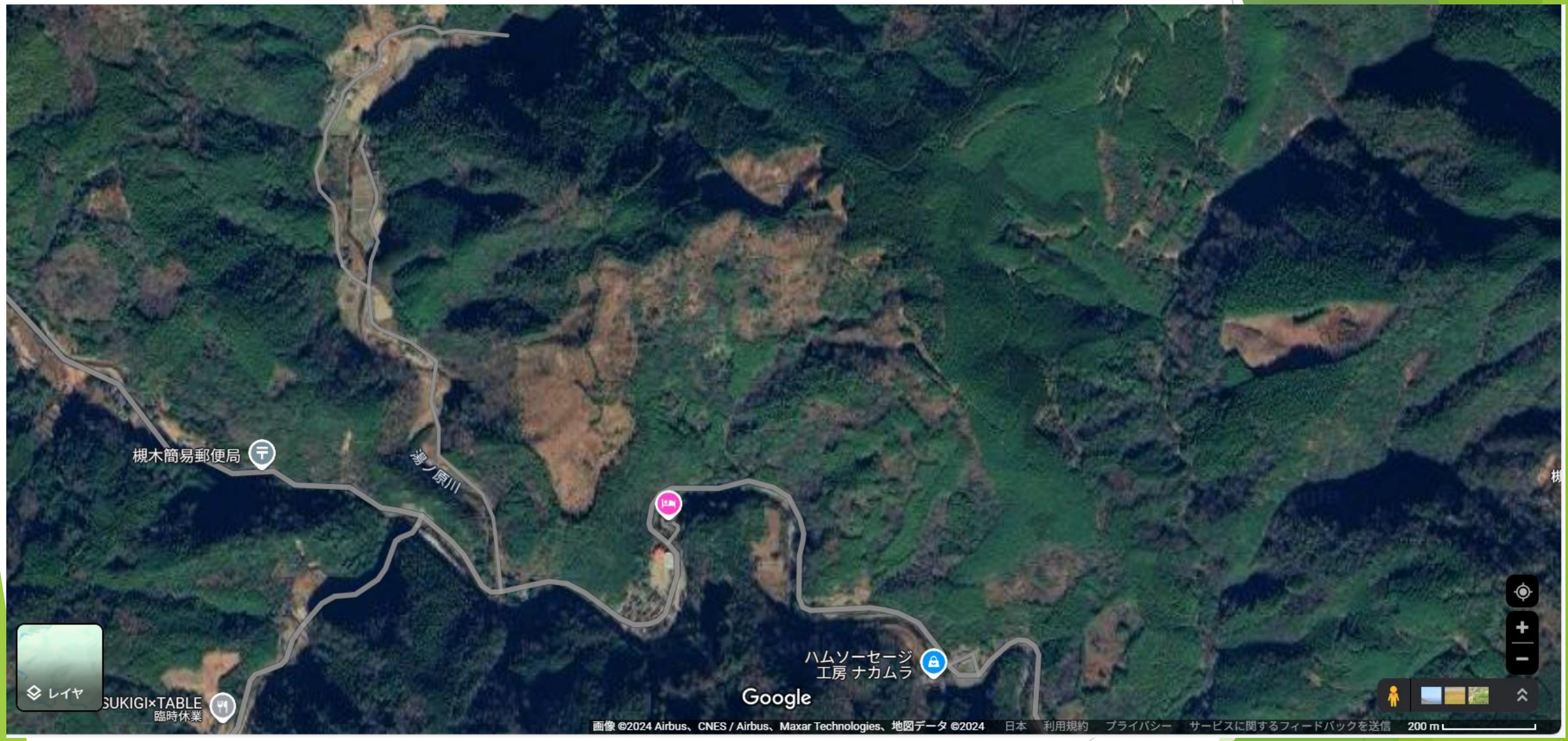
八代市
椎葉村
五木村
水上村
多良木町
球磨村
山江村
あさぎり町
西米良村
人吉市
錦町
熊本県球磨郡多良木町槻木地区
Google
画像 ©2024 TerraMetrics、地図データ ©2024 日本 利用規約 プライバシー サービスに関するフィードバックを送信 5 km



2022.1.1 現在	槻木地区	世田谷区	
人口	93	916,208	約1/10000
世帯	53	489,372	約1/10000
面積	85.1 ㎢	58.05 ㎢	約1.5倍

Geoshapeリポジトリ - 地理形状データ共有サイトより引用

多良木
公立病院前
東免田
浄心寺(城泉寺)阿弥陀堂
吉祥院 勘代寺
東病院
株式会社堤酒造
あさぎり
妙見野自然の森展望公園
岡原北
多良木町
久米
上北
上東
黒原山展望所
岡原南
あさぎり町
麓城跡
ふるさとの森休養施設
ハムソーセージ工房 ナカムラ
ビハ公園キャンプ場
皆越鬼子母神
上西
第二キャンプ場
平成悠久石
板谷
レイヤ
Google
画像 ©2024 Airbus、CNES / Airbus、Landsat / Copernicus、Maxar Technologies、地図データ ©2024
日本
利用規約
プライバシー
サービスに関するフィードバックを送信
1 km


槻木簡易郵便局
湯ノ原川
ハムソーセージ
工房 ナカムラ
SUKIGI×TABLE
臨時休業
レイヤ
Google
画像 ©2024 Airbus、CNES / Airbus、Maxar Technologies、地図データ ©2024
日本
利用規約
プライバシー
サービスに関するフィードバックを送信
200 m

槻木地区の概況　2009年当時

- 人口　157人
  - ６５歳以上高齢者人口　１０５人
- 高齢化率　66.9%（中学生以下の住民　0）
- 要介護認定者　１2名　（受給者12名）
- 医療機関　槻木僻地診療所（月・水・金）
- 福祉サービス
  - 地域支援事業（認知症対応月１回）

生活上の問題点

- 生活状況が一見自立しているように見えても、実際には身体面、認知面に様々な問題があるにもかかわらず、本人もその周辺の人たちにも危機感がない。
- お茶のみなどの高齢者同士の交流がほとんどない。
- 町まで山道を車で30分以上もかかるので、外出する時は、誰かに頼らなければならず、外出の機会が限られる。
- 僻地であるため、必要なサービスを受けることができない。

槻木地区のモバイルデイケア

地区の概要

✓ センターから車で片道1時間（37.6km）

✓ 人口168人、高齢化率66.1％ 。（2010年頃　開始当時）

実施期間

✓ 春と秋に３か月ずつ。

スタッフ

✓ 医師、看護師、介護福祉士、PT・OT

実施内容

10：30　センターを出発
11：30　到着・準備
13：00　送迎・バイタルチェック
13：30　活動開始（筋トレ、茶話会など）
15：45　送迎
17：00　施設に帰園

モバイルデイケア

槻木会場全景

（廃校になった中学校）

1年間のスケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
モバイルデイケア			休止			モバイルデイケア			休止		

頻度

- 週1回実施

実施内容

- 必要な人は送迎

- 健康チェック
  - 問診、検温、血圧測定、酸素飽和度測定

- 訓練内容
  - ストレッチ
  - 筋力トレーニング（平行棒を使った起立訓練、バランスマットを使っての片足立ち、チューブを使った上肢の訓練　等々）

- 茶話会

- 自宅で行うトレーニングの説明、生活・運動チェック表交付

- 解散

モバイルデイケア実施風景

体力と認知の評価（シリーズの開始時・終了時）

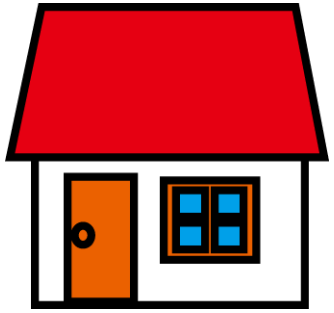
- **体力測定（8項目）**

  握力、T＆GO、ファンクショナルリーチ、10m歩行、
  6分間歩行、閉眼片足立ち、最大歩幅、臥位⇒立位時間

- **認知面**

  HDS-R,MMSE

休止期間中の指導内容



- 自主訓練

（体操・筋力トレーニング）

※　それぞれの身体状況を考慮した個別の訓練を提供

- 生活･運動チェック表の記載

（曜日、天気、その日の出来事、運動）

※　見当識の確認や１日をふり返り、記録することで、自身で健康チェックができる。

- 電話連絡にて、生活状況の確認

槻木地区モバイルデイケアについての考察

① 身体・認知面ともに、実施期間には向上しても、休止中に低下するため、いかに日常の生活の中で、個々人が体力の維持向上を意識した生活を送ってもらうかの動機付けが重要と考える。

② 週１回であるが、日頃交流が少ない高齢者が集まり活動し会話を交わすことで、過疎地でのコミュニティの再建につながり、生活意欲の向上や認知面での改善などが認められ、介護予防としての有効性も実感できた。

③ 役場の保健師との連携のなかで、過疎地の住民の健康や要介護状態の変化等について、最新の情報を提供することができ、地域的理由で対応が遅れ在宅生活が困難になってしまうような事態の防止につながるという効果も十分考えられる。

④ 過疎でサービスが行き届かない地域でも、そこに住む人々が住み慣れたところで自立した生活をできる限り続けていくための有効な支援の一手法となりうる可能性を秘めた事業であることを実感できた。

槻木地区モバイルデイケアの経過

- ８年間の事業実施後、行政からの申し出もあり事業を町へ引き継いだ
  - （要因）集落支援員の採用と常駐
  - 町の事業としての認知症予防教室に開催も始まった（月１回）
  - 町内の事業所からの申し出？？
- 熱意ある集落支援員の退職に伴い自然消滅・・・・

槻木地区の現在

- 2024年7月31日現在
- 人口85名（65歳以上80名）高齢化率94.1%　世帯数54世帯
- 要介護認定率11.25%（9/80名）
- 介護サービス利用状況
  - 通所介護３名、訪問看護２名（いずれも週３から４回）
- 医療サービス　槻木僻地診療所（週２回）

2009年当時

- 人口　157人
  - ６５歳以上高齢者人口　１０５人
- 高齢化率　66.9%（中学生以下の住民　0）
- 要介護認定者　１2名　（受給者12名）
- 医療機関　槻木僻地診療所（週3回）

１０年前からする人口減少が加速。

（しかし）障害があっても認知機能が落ちても、自給自足、自助・互助で生活ができている。

移動手段は車しかなく高齢になっても車の運転は必要不可欠といっても過言ではない。

地域支援の手段としてのモバイルデイケアの課題

（継続することへの課題は多岐にわたっている）

- 提供側のエネルギー
  - 人、物、資金、時間
- 地域の理解
  - 住民の参画
    - 過疎地の住民は現状を受け入れている（諦め）
    - 急速に進む高齢化
- 行政の理解と連携
- 事業の効果の見えるかを実現する効果尺度の開発

地域リハ活動で**地域に出て行ったことで**
職員や施設は**どう変化したか**

- 明るくなった
- 礼儀正しくなった
- 社会性やコミュニケーション能力が向上した
- 人間関係がスムーズになった
- 地域をよく知るようになった
- 行政との連携もスムーズに進み、担当者に声をかけやすくなった
- 町内会や老人会からよく声をかけてもらうようになった
- 地域のキーパーソンに相談しやすくなった
- 職員の頭に地域の詳細地図が自然に入るようになった常に言葉遣いや身だしなみに注意するようになった
- 外部からの評価（施設をどう見られているか）に気づくことができた
- 外部からの印象を知ることが施設のリスク管理につながってきている
- ・・・・・

⇒　災害発生時、初動が自然に
警報発生時の対応も速やかに
できている

モバイルデイケアの手法を活用した災害支援

oyakuen-group